

もとす教道研会報 第49号 令和7年8月31日

発行所:岐阜県モラロジー連絡協議会
Tel/058-214-6224 Fax/6225

総会・講演会を開きました！

令和7年7月5日（土）午前10時～、もとす教育者道德研究会の総会並びに講演会を北方町ホリモク生涯学習センター2階会議室Aにおいて行いました。開催ご案内が遅くなり10名の会となりました。ご多用中にも拘らず参加していただいた皆様に、感謝申し上げます。

まずは総会です。進行を芳賀副会長が担当、挨拶と役員紹介を森山会長、参加者の自己紹介の後、昨年度事業報告・今年度活動案を森山書記、会計報告・予算案を大野会計が行い、会計監査は神谷監査が行いました。それぞれが拍手により承認されました。

森山会長の挨拶要旨「【本会と（公財）モラロジー道德教育財団の紹介】（略）。私は福島県生まれのデラシネ（根無し草）です。そもそも岐阜県に関心を持ったきっかけは、地図帳下に描かれた輪中のイラストでした。輪中が皆で力を合わせて生きるユートピアのように思えたのです。縁があって岐阜県の教員になり、いろいろ読んだり聴いたりしてみると、水害や生活の厳しさという現実を知りました。『森山さんの言うように辛く苦しいばかりではないんだよ。我々にも輪中根性という醜い心があるし、洪水も悪いことばかりじゃなく田畑に栄養を運んでくれるいいこともある』古老のお話が、後年の私の教育信条『人生なんでもプラス思考』を産んだきっかけになりました」



順に 芳賀副会長、大野会計、神谷監査、森山会長

令和7年度 もとす教育者道德研究会役員・理事

顧問	林 明夫	北方町教育委員
会長	森山 政紀	岐阜県モラロジー連絡協議会事務局長
副会長	渡邊慎一郎	瑞穂市立本田小学校教頭
	芳賀 智子	本巣市立一色小学校教頭
	北村 昌弘	北方町立南学園教頭
	神谷 肇	岐阜もとすモラロジー事務所顧問
書記	森山 政紀	兼務
会計	大野 琴美	本巣市子どもセンター所長
監査	神原 重典	岐阜もとすモラロジー事務所顧問
	神谷 美里	岐阜もとすモラロジー事務所女性ク担当
理事	伊藤 智子	瑞穂市立本田小学校校長
	長屋 和宏	本巣市立土貴野小学校校長
	堀 正樹	北方町立南学園校長
	森 健治	岐阜もとすモラロジー事務所副代表世話人

令和7年度 今後の主な活動計画

7月24日（木）第62回岐阜県道德教育研究会岐阜瑞穂会場

13:00～ 瑞穂市ココロかさなるCCNセンター

※申込連絡者の参加費（千円）を岐阜もとす事務所・本会が負担。

◎以上の内容をまとめて会報第50号として発行予定（9月下旬）

◎17年間の活動をまとめた『あゆみ』を発行予定（2月下旬）

2月28日（土）役員・理事会、ご苦労さん会 場所未定

3月13日（金）関係教育長・校長会長閉会挨拶訪問 予定

※17年間の感謝を込めて、『あゆみ』を報告書として、お世話になりました関係者へのご挨拶巡りを考えております。

講演：埋蔵文化財調査に携わって

北方町立南学園 教頭 北村 昌弘 先生

「始めに、皆さんに2つ土器の欠片をお配りするので、どれでも良いのでお取りください。手にしたら目を閉じてください。頭の中のテレビにはどんなことが映像として浮かびましたか…。

それぞれの心の豊かさや経験により違ってくると思います。夢のあるロマンを感じる仕事の一端を皆さんにお伝え出来たらと思います。昔の人が土で作り、暮らしに使った物の欠片です。

重さや色の違いから、皆さんが言ったように先の物が縄文で、後の物が弥生土器です。これらは、岐阜県の遺跡から発掘された本物です。3年間お世話になった県の文化財保護センターから今回お借りして来ました。

縄文土器は手びねりで分厚く、祭事に使われた物が多いです。それに比べると、弥生土器は高温で焼かれ薄くて軽い、生活で使われた物が多いのです。人口が増えたこともあり、遺跡の数も多く残ります。ラベルをよく見るとAM…とあります。Aは荒尾、Mは南の略です。大垣市にある荒尾南遺跡からの出土品であることを示しています。地図で格子状に数字が示され、数字を見るとどここの位置から発掘された物かが分かるようになっていきます。その記録を正確に残すことが大切な文化財保護センターの仕事になります。

開発の計画が分かると『現状変更』となり、事前の発掘調査が必要になります。開発されるということは今迄そこに残されていた貴重な遺産が破壊されるということです。無くなる前に『文化財保護法』という法律に則り、先人の足跡が未来への記録として伝えられます。開発業者の負担により行われます。



埋蔵文化財は土に埋まっている訳ですが、土器片のように腐らない物はよいとして、木製のクワ等は何故発掘可能なのでしょうか…。それは、土の中が真空状態になっているためにバクテリア等の腐敗を促す物から遮断されるからなのです。当時の先輩からいろいろ教えていただいた内の一つです。埋蔵文化財の発掘方法について………【略】

私は、社会科が専門とはいえ政治専攻でしたので、この分野は全くの門外漢でした。配属が決まって4週間専門職の指導を受け、現場に立ちましたが、どうしてよいか分からず途方にくれたものです。写真を撮るにしても便利なデジタルカメラは使用不可です。たくさん苦労はありましたが、止めようとは少しも考えませんでした。『環境に順応する』ことは大切です。与えられた仕事の中に面白さや遣り甲斐を感じる事が出来ました。その性分はその後、妻の紹介で通うことになったお茶でも発揮されました。先生の薦めに従いよく学んだことで茶道の先生になるお許しを得て、今では岐阜大生や児童に教えてもいます…」

【いただいたアンケートより】

埋蔵文化財は文化財保護法で大切に守られている事を知り私たちの未来だけでなく過去も多くの人の手で守られているという事を知り、とても温かいお話だと感じました。私は教員としての経験しかありませんが、3年間教育現場を離れ文化財保護センターで貴重な体験をされ、とてもうらやましく思いました。私も自分の分野で学びを深め、教育現場で生かしたいという気持ちが強くなりました。人は一生勉強して人生を豊かにしていくものだと、改めて感じるよい機会をいただきました。 成瀬世里香先生



講演会は、大野琴美会計の進行、林明夫顧問による講師紹介で進め



順に 大野会計、林顧問、神谷副会長

られ、神谷肇副会長の閉会挨拶にて無事幕を閉じたのでした。終了後は、昼食事前打合せ会を行い道德教育研究会の準備としました。